

仕 様 書

この仕様書は、大阪国際がんセンターにおける酸素濃縮装置等の賃貸借について必要な事項を定めるものとする。

1. 機器類の種類・規格・数量

酸素濃縮装置等の内訳

種 類	規 格 (型 式)	数 量
酸素濃縮装置（付属品を含む）一式	酸素流量 2ℓ. 3ℓ. 5ℓ. 7ℓ	いずれか1種類を1台
携帯用酸素ボンベ（付属品を含む）一式	軽量型 1ℓ. 2ℓ. 7ℓ以上	必要数
・酸素調節器	呼吸同調酸素供給調節器	必要な場合 1台
・キャリアー	コンパクトタイプ	必要な場合 1台
呼吸同調式デマンドバルブ	ヨーク式	必要な場合 1台

※付属品は、カニューレ・カニューレ延長チューブ・フィルター・加湿機用フィルターとする。

なお、各機器の付属品、消耗部品等の提供に関しては無償とし、患者に負担させてはならない。

2. 酸素濃縮装置等の仕様と付帯業務

1) 患者の疾病状態に応じて対応できる各種流量の酸素濃縮が可能であること。

大人 0.5ℓ/分～7ℓ/分

2) 酸素濃縮器には、濃度異常警報・流量異常警報があり、音及び光表示で知らせる機能を有すること。

ただし、警報と同等の機能を有している場合はこの限りでない。

3) 携帯用酸素ボンベは安全・軽量であり（ボンベ運搬用キャリアー付）、酸素の持ち時間は1分当たり1ℓの流量で5時間以上であること。

4) 酸素調節器は供給酸素量が安定しており、呼吸数で酸素量が変化しないこと。電池は8時間以上使用可能で、万一電池切れの場合は連続モードで酸素流量が変更できること。

また、低肺機能患者のために感度切替機能等の対応が可能なこと。ただし、この場合は患者の同意を必要とする。

5) 酸素濃縮装置の故障及び酸素ボンベの供給は、365日・24時間対応が可能であること。24時間体制で職員が、患者やその家族等からの緊急連絡に対応（留守番電話やFAX対応は不可）すること。

6) 旅行時には、地域毎の対応が可能な全国ネットワークの営業エリアを有していること。また、旅行・外泊中の対応については、使用者（患者）に機器貸与時及び使用者（患者）から旅行・外泊する旨の申し出があった時には、サポート体制、機器取扱等について説明するものとする。

7) 主治医が必要と認めた場合、その指示により酸素濃縮装置の使用者（患者）宅を定期的（月1回以上）に訪問し、その状況を主治医に報告すること。また、主治医が繰り返し訪問が必要であると認められる使用者（患者）の場合も同様とする。ただし、使用者（患者）が同意する場合に限る。

8) 災害時等の緊急対策で機器等が必要となった場合、速やかに機器を確保し対応できること。広域災害（大地震等）に対応できる全国ネットワークを有していること。また、災害時対応マニュアルを整備していること。

9) 緊急用及び携帯用酸素ボンベ（付属品を含む）は、使用者（患者）が必要とする数量を供給するこ

とが可能であること。

- 10) 入院中であっても、機器や酸素ボンベ等が必要な場合には対応が可能であること。
- 11) 酸素濃縮器等の保守点検は、6 か月に 1 回以上実施すること。また、点検の結果、不良な状態を認めた場合は、正常な状態に戻すため、調整、清掃、修理、部品交換等を行うこと。その際、必要に応じて代替機器等を提供するとともに、機器類の消毒等の衛生管理体制と実施済みであることを表示すること。
- 12) 独居・高齢世帯・重症患者（特にがん患者）等が使用する機器が正常運転状態の監視が行える配慮がされていること。
- 13) 機器等に精通したスタッフを配置すること。スタッフは、機器の仕様に精通し、あらゆる状況に対応できる知識を習得させるとともに、患者への対応方法等の研修・教育がなされていること。
- 14) 使用者（患者）の情報管理体制が整っていること。在宅訪問時の情報持ち出し等におけるセキュリティ対策が行われていること。
- 15) チーム医療の一員としての体制及び実績があること。
- 16) 酸素ボンベ等は、法律に基づき点検すること。
- 17) これらの機器の所在、点検記録はデータで管理し、必要に応じて提供できること。

3. 在宅酸素療法における火気の取扱いの注意喚起

在宅酸素療法を受けている患者やその家族等に対して以下の点を説明し、酸素吸入時の火気の取扱い等について注意喚起すること。

- 1) 高濃度の酸素を吸入中に、たばこ等の火気を近づけるとチューブや衣服等に引火し、重度の火傷や住宅の火災の原因になること。
- 2) 酸素濃縮装置等の使用中は、装置の周囲 2m 以内には火気を置かないこと。特に酸素吸入中には、たばこを絶対に吸わないこと。
- 3) 火気の取扱いに注意し、取扱説明書及び医師の指示に従い吸入すること。

4. 発注及び受注後の処理

- 1) 酸素濃縮装置等の発注は、発注者の医師の指示書により、発注者の事務局医事グループが発注するものとする。具体的な処理方法については、別紙のとおりとする。
- 2) 受注者は、受注後速やかに発注者が指定した使用者（患者）の居住場所に機器を設置するとともに、使用者（患者）に対して十分な取り扱い説明を行うこと。また、設置後は、設置の事実を書面で発注者に報告するものとする。
- 3) 機器の設置後も、使用者（患者）の居住場所を訪問したときには、その事実を書面で発注者に報告すること。

5. その他

- 1) 契約金額には設置に伴う機器の搬入・搬出・据付等の一切の費用を含む。
- 2) 設置には試運転・調整を含む。

6. 予定数量

契約期間中（令和 4 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日）の予定数量は、酸素濃縮装置（付属品を含む）一式を 310 件、携帯用酸素ボンベ等（付属品を含む）一式を 308 件、呼吸同調式デマンドバルブを 180 台とする。ただし、上記についてはあくまで予定数量で約束するものでない。

酸素濃縮装置等の発注・受注について

1 指示書の作成（担当医師）

（記入内容）

- ・ 患者氏名、I D 番号、設置住所、電話番号
- ・ 処方内容（流量及び吸入時間の決定）
- ・ 酸素濃縮器、携帯用酸素ポンベの指示

（処理）

同意書兼預書④をカルテに貼り付ける

※ 同意書兼預書④と処方指示書兼同意書⑤に患者の署名・押印が無いときは、①～⑤を医事グループに回付する

①②③の用紙を医事グループに回付する

処方指示書兼同意書（控）⑤を患者に手渡す

2 発注（医事グループ）

医師からの指示書により、契約業者あて発注

- ・ 発注依頼書と在宅酸素療法指示書①をFAXで送信
- ・ 在宅酸素療法指示書①は医事グループで保管

設置指示書② → 施設保全グループへ回付

設置依頼書③ → 契約業者へ

※ 同意書兼預書④と処方指示書兼同意書（控）⑤に患者の署名・押印が無いときは、④⑤を契約業者に渡し、患者宅訪問時に患者の署名・押印をもらうよう依頼する。

3 受注（契約業者）

FAXで発注を確認後、受注したことを医事グループへ連絡

設置依頼書③は、後日医事グループから受け取る

機器設置後、施設保全グループに設置完了を文書で報告

※ 医事グループから、同意書兼預書④と処方指示書兼同意書（控）⑤を預かったときは、患者宅訪問時に患者の署名・押印をもらい、⑤は患者に手渡し、④は後日医事グループに持参する。

4 ただし、上記の場合において、概ね同様の事務が行われ、受注者が独自の用紙等を備えている場合は、それを採用することとする。